

「次期学習指導要領」における小学校外国語教育の在り方

The way of elementary foreign language education
in the field of the new curriculum guidelines

中 川 洋 一 菅 井 留 美 子
Yoichi NAKAGAWA Rumiko SUGAI

I はじめに

平成10年度改訂の学習指導要領では、小学校における英語活動は、総合的な学習の時間において、各学校の判断により、「国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等」という位置づけで実施されている。その際に、「学校の実態に応じ、児童が外国語に触れたり、外国語の生活や文化に親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること」となった。

その後、「平成19年度 小学校英語活動実施状況調査」においては、公立小学校の総合的な学習の時間において約8割以上の学校が英語活動を実施しており、特別活動等も含め何らかの形で英語活動を実施している学校は97.1%に及んでいた。一方、文部科学省指定の研究開発学校や構造改革特別区域研究開発学校においては、教科として英語を実施している公立小学校も増えつつあった。これらの学校では、小学校段階で英語教育を実施することによって、英語に対する意欲・関心が高まったことや、スキル面での一定の成果がみられた。

しかし、市町村により導入形態が異なったり、近隣の学校間に差が生じたりすることで、児童や保護者に不安を抱かせ、さらに続く中学校での英語教育にも弊害をもたらすことにもなりかねない状況があった。そこで、小学校に共通の指導内容を設定することで改善を図る必要もあり、小学校高学年からの外国語活動導入について、平成20年3月に告示された小学校学習指導要領で定められた。

現行の学習指導要領における小学校外国語活動は、上記の成果と課題を踏まえて導入された。そこで、「次期学習指導要領における小学校外国語教育の在り方」を考察するうえでも、現行の学習指導要領における小学校外国語活動導入の基本理念や現状、そして成果と課題を踏まえ、次期学習指導要領の中でどのように改訂されたのかを分析し考察を進めることで、授業改善の一助としたいと考える。

Ⅱ 現行学習指導要領での小学校外国語活動の成果と課題

【現行学習指導要領における外国語活動導入の基本理念】

○小学生の柔軟な適応力を生かすこと

コミュニケーション能力を育成する上で小学生の柔軟な適応力は、コミュニケーションへの積極的な態度の育成や、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことに適している。

○グローバル化の進展への適応

小学校での外国語教育は、グローバル化が進展する中でその必要性が高まり、国際的にも急速に導入が進められている。小学校での外国語教育を充実することにより、次世代を担う子どもたちに国際的な視野を持ったコミュニケーション能力を育成する。

○教育の機会均等の確保

教育の機会均等を確保し、中学校教育との円滑な接続を図る観点から、中学校入学時に共通の基盤が持てるよう、小学校段階で必要な指導内容を提供する。

「外国語活動」の導入は、上記の基本理念にあるように、現状を踏まえ、課題を解決するとともに、広い意味でのコミュニケーション能力を育成するための教育の一環として位置づけられ、平成23年度から全国すべての小学校で取り組まれてきた。

そして今回、導入から7年目を迎える中で告示された次期学習指導要領では、3・4年生から「外国語活動」、5・6年生では「教科外国語」として、平成30・31年度の2年間の移行期を経て平成32年度から全面实施されることになった。大きな変革を迎えた小学校外国語教育であるが、今回の改訂に至るには、現行の学習指導要領で実施されてきた「外国語活動」における成果と課題が検討されている。

【答申の中で指摘された、小・中・高等学校を通じた外国語教育の成果と課題】

○外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、様々な取組を通じて充実が図られてきた。

△グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。

△学年が上がるにつれ児童生徒の学習意欲に課題が生じ、学校種間の接続が十分とは言えず進級や進学後にそれまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができていない。

△中・高等学校では、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、生徒の英語力では、習得した知識や経験を生かし、適切に表現することなどに課題がある。

上記の成果と課題を「現行学習指導要領の基本理念」と比較検証してみると、小学校の5・6年生における外国語活動は、一定の成果を上げていると考える。実際に、学級担任が指導する場面やALTを活用したティーム・ティーチングによる活動場面で、児童が積極的にコミュ

ニケーションを図ろうとする姿を、幾度となく参観している。

しかし、その後の中・高等学校における英語教育の状況をみると、学校種間の学びの接続及び学習意欲の継続、そして、生涯にわたり様々な場面で外国語によるコミュニケーション能力が必要とされることが大きな改訂要因と考えられる。

さらに、次期学習指導要領の改訂論議で最も熱心に論議されたことについて、中央教育審議会委員（上智大学特別招聘教授）である吉田研作氏は、彼が編集した書（「小学校英語教科化への対応と実践プラン」）の中の総論で以下のように論じている。

『これからの教育を考えるにあたって、最も大切なこととされたのは「これから2030年代に向かって、われわれの国は大きな変化の時を迎える」という時代認識であった。「今の子どもたちが社会に出る頃には今の職業の半分以上がなくなっている」というフレーズや「多様化・グローバル化」「AIの発達」という言葉が教育全体のあり方を議論する枕詞のように使われ、これから劇的に変わっていくなかで、日本人が生きていくためにはどうすればいいのか、世界のグローバル化が進展するなかで、これからどういう教育が必要なのか、そうした議論を基にまとめられたのが新しい学習指導要領なのである。

その結果、今回の改訂では「社会に開かれた教育課程」が英語教育全体の改革の指針となっていて、教員の一方的な講義形式の教育からできる限り児童・生徒の能動的学習活動を取り入れていくことが求められているのである。

定義の定まっていない言葉を法的な文書に使うことができないという理由で、最終的に「アクティブ・ラーニング」は「主体的・対話的で深い学び」という言葉に置き換えられているが、英語教育としては「主体的・対話的で深い学び」と言うほうが英語教育のあり方をわかりやすくしていると考えられる。つまり、児童・生徒が対話などを通して自ら学びとるという英語教育である。』

さらに、教育課程部会、教育課程企画特別部会、総則・評価特別部会、幼児教育部会、中学校部会、生活・総合的な学習の時間ワーキンググループの委員であった、上智大学教授 奈須正裕氏は、彼の著書である「資質・能力と学びのメカニズム」の中で、

『2014年11月20日、中央教育審議会に対し文部科学大臣から「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問が行われ、学習指導要領の改訂作業がスタートします。しかし、従来と異なり、教科特別の部会はすぐに立ち上げられませんでした。そこからほぼ10か月の間、主要な議論の場は、教育課程特別企画部会という聞き慣れない名前の部会だったので。』

教育課程企画特別部会では、まず新しい学習指導要領が運用の最終局面を迎える2030年の社会と、その社会に生き、さらにその先の社会を主体として創造していく子供たちに育成を目指す資質・能力について検討がなされました。

ここから、「社会に開かれた教育課程」という基本理念、また、育成を目指す「資質・能力の3つの柱」という学力論を基礎付ける枠組みが導かれていきます。』と書いている。

その教育課程企画特別部会は2015年8月26日の「論点整理」において、『指導すべき個別の内容事項の検討に入る前に、まずは学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて【何ができるようになるのか】という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。そのうえで、整理された資質・能力を育成するために【何を学ぶのか】という、必要な指導内容を検討し、その内容を【どのように学ぶのか】という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。』と出され、そして2017年3月の告示に至っている。

Ⅲ 次期学習指導要領からの考察

現行学習指導要領における小・中・高等学校を通じた外国語教育の成果と課題を踏まえ、さらに2030年の社会を生きていくために必要な資質・能力を育むための「小学校外国語教育」、さらに「主体的・対話的で深い学び」を実現するための「小学校外国語教育」について、告示された次期学習指導要領から考察していく。

1. 外国語活動及び外国語では、何ができるようになるのか、何を学ぶのか

(1) 目標から

「小学校学習指導要領解説 外国語編」(文部科学省、平成29年7月)には「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表があり、そこからは小学校3年生から中学校3年生までの目標の段階を一目で把握することができる。課題とされていた小・中学校の学びの接続を目標から明確にしている。

小3・4年 外国語活動	小5・6年 外国語	中学校 外国語
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと・話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」については、「外国語で表現し合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」とされ、小・中・高等学校を貫く共通事項で、外国語を学ぶ本質的な意義で

ある。その見方・考え方を働かせ、外国語活動における言語活動は「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」の3領域、小学校外国語及び中学校外国語における言語活動は、小中の学びが連携するように「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の同じ5領域となっている。

これらの言語活動を通して育成する3つの資質・能力についても、学校段階別で下記のように表記されている。

【知識・技能】～何を理解しているか、何ができるか		
小3・4年外国語活動	小5・6年 外国語	中学校 外国語
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

「外国語活動」では、「体験的に理解を深め」とあるが、コミュニケーションの体験を通して知識・技能に慣れ親しむことである。文科省から出された『「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」(※以下、研修ガイドブックとする)～授業研究編Ⅰ』第3学年外国語活動年間指導計画例(案)から具体的にみる。「Unit1 あいさつをして友達になろう～Hello. I'm Hinata. Goodbye. See you.」と新しい学級の友達と英語を使って挨拶をする体験的な活動から始まり、「Unit4 すきなものをつたえよう～I like blue. Do you like blue? Yes, I do./No, I don't. I don't like blue.」へと活動が進むと、子どもは他に何が好きか、もっと聞いてみたくなるものである。そこで、次の単元では、「Unit5 何が好き?～What do you like? I like tennis. What sport do you like? I like soccer.」何が好きか尋ねたり答えたりして伝え合う活動になる。さらに、バナナが好きだと話した子どもがいた際には、英語ではbananaと発音することを伝え、子どもは似ているけれどアクセントが違うね、というように日本語と外国語との音声の違いに気付くことになる。一つの気づきが、まだ他にも似ているけど発音が違う英語があるのではないかと考え、発音して試してみたくなるものである。このような学びの中で、体験的に理解を深めていくと考える。

「小学校外国語」では、『研修ガイドブック～授業研究編Ⅱ』第5学年外国語年間指導計画例(案)から具体的にみると、3年生で扱われていた挨拶の活動に「読むこと」「書くこと」に慣れ親しむための活動が入る。「Hello. I'm Saki. Nice to meet you. My name is Kosei. How do you spell it? K-o-s-e-i. I like (don't like) blue. What sport do you like? I like soccer very much. I have old ball. I want a new ball.」というように会話が続き、その中で自分の名前を

英語の活字体で何と読むのか、さらに、活字体で自分の名前を書いたり、そのつづりを読んだりして慣れ親しむ活動をしながら、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けることになる。

【思考力・判断力・表現力等】～理解していること、できることをどう使うか		
小3・4年外国語活動	小5・6年 外国語	中学校 外国語
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

「外国語活動」では、『研修ガイドブック～授業研究編Ⅰ』から、第4学年「Unit5 おすすめの文ぼう具セットをつくろう～Do you have a pen? Yes, I do. No, I don't. I have/don't have a pen. This is for you.」では身近な文房具について「Unit7 ほしいものは何かな?～What do you want? I want potatoes, please.」では自分のほしい物について、英語で聞いたり話したりして伝え合う力の素地となる活動が行われる。

「小学校外国語」では、『研修ガイドブック～授業研究編Ⅱ』から、第6学年「Unit5 夏休みの思い出～I went to my grandparents' place. It was fun. I enjoyed fishing. It was exciting. I saw the blue sea. It was beautiful.」では、それまでに聞いたり話したりして理解した語彙や表現を使って、夏休みの思い出について自分の考えや気持ちを伝え合おうとしたり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現例：I went to my grandparents' place. It was fun./I went the sea. It was fun./I went the park. It was nice.等から選び、語順を意識しながら日記のように書いたりして、基礎的な力を養う活動が行われる。

【学びに向かう力・人間性等】～どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか		
小3・4年 外国語活動	小5・6年 外国語	中学校 外国語
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話して、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

「外国語活動」から第3学年「Unit4 すきなものをつたえよう～I like blue.」場面では、好奇心旺盛な3年生にとっては、自分の好きなものを英語で話すことができるようになると、

もっといろいろな好きなものを英語で話してみたくなるものである。また、友達も好きか英語で尋ねることができるようになると、グループや他のメンバーにも尋ねてみようとする姿が見られるようになる。この姿こそが、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする姿と考える。さらに、友達のことを考えながら、つまり相手に配慮しながら英語を使ってコミュニケーションすることで、今まで知らなかった相手の好みがわかり、良好な人間関係が築かれていくことにもつながる。

「小学校外国語」から第6学年「Unit5 夏休みの思い出～My Summer Vacation」場面では、世界の国々の子供たちが夏休みの思い出について話している映像資料を視聴する学習がある。当然、子供たちは日本の夏休みと比べながら聞くことで違いに気づき、外国語の背景にある文化に興味をもち理解を深めていくことになる。そして、話の中で使われていた「It was beautiful. It was nice. It was delicious. It was exciting.」が、感想を表す表現であることを知識として理解していく。そして、自分の夏休みの思い出について話す時に、感想を表す表現を使うことでより自分の気持ちを伝えることができると分かり使ってみようとする姿が、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度であると考えられる。

(2) 各言語の目標及び内容から

今回の改訂の大きな特徴の一つとして、学校種間の学びを接続させるため、国際基準(CEFR)を参考にして小・中・高等学校まで一貫した5つの領域別(「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」)の目標や言語活動等を明記したことである。

ここでは、5・6年の外国語で新しく加わる「読むこと」「書くこと」について、領域別の目標及び言語活動を合わせて見ながら、実際の授業を考えていきたい。

5・6年 外国語 「読むこと」	
領域別の目標	領域別の活動
ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。	(ア)活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。 (イ)活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。
イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	(ウ)日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。 (エ)音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

「外国語活動」では、体験的に理解を深め慣れ親しむ活動であったが、「外国語」では、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現の意味が分かる、意味を理解することが目標となっている。具体的に見てみると、第5学年の「Unit3 学校生活・教科・職業～What do you have on

Monday?」及び「Unit4 一日の生活～What time do you get up?」では、時間割や一日の生活について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり、書き写す活動がある。つまり、「読むこと」「書くこと」については、各々の領域別で目標や活動例が設定されているが、対であり接続する活動と言える。

5・6年 外国語 「書くこと」	
領域別の目標	領域別の活動
<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。</p>	<p>(ア)文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。</p> <p>(イ)相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。</p> <p>(ウ)相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。</p> <p>(エ)相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。</p>

さらに、「Unit5 できること～She can run fast. He can jump high.」、「Unit6 行ってみたい国や地域～I want to go to Italy.」、「Unit7 位置と場所～Where is the treasure?」、「Unit8 料理・値段～What would you like?」では、できること、行ってみたい国や地域、場所や物の位置関係、料理等について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かり、他者に伝わるように配慮しながら、伝える目的を明確に持って書き写す活動がある。

6年生では、それぞれの内容を英語で読んで意味が分かり、例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書く活動となる。「Unit2 日本へようこそ～Welcome to Japan.」「Unit3 日本や世界で活やくする日本人」では、日本の文化や日本や世界で活躍する人の話を聞いて概要がわかり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って伝えたり紹介したりするために、例を参考にして書く活動となる。さらに、書かれたものを読んだり書いたりしようとする活動も行われる。「Unit7 小学校生活・思い出・行事～My Best Memory」では、小学校生活を振り返って思い出に残る行事について書いたり、伝え合ったりする活動は、まさに、書いたものを友達同士互いに読み合う活動である。「書くこと」については、5年生までの書き写す活動から一歩進み、例を参考にして自分のことを書く活動になり、さらに、書いて終わるのではなく友達同士で書かれたものを互いに読もうとする活動へと発展していく。5・6年生の外国語では、「読むこと」「書くこと」が対となり学びが進んでいくことになる。

2. 外国語活動及び外国語では、どのように学ぶのか＝主体的・対話的で深い学び

ここでは、次期学習指導要領の目標や内容を踏まえて、第5学年の「Unit1 アルファベット・自己紹介～How do you spell it?」から1時間目の指導案を提示して具体的に考えていく。

【単元目標】には、3つの資質・能力を示している。

知識・技能	活字体の大文字や好きなものや欲しいものについて尋ねたり答えたりする表現が分かる。
思考力・判断力・表現力等	自分のことや身近なことについて、短い会話や説明を聞いて概要を捉えたり、好きなものや欲しいものについて尋ねたり答えたりする。
学びに向かう力・人間性等	他者に配慮しながら自身の名前や好きなもの、欲しいものなどを含めて簡単な自己紹介をしようとする。

【言語材料】好きなものや欲しいものを尋ねたり答えたりする表現例を表記している。

(A) Hello. I'm (Saki). Nice to meet you.	(B) My name is (Kosei).
(A) How do you spell it?	(B) K-o-s-e-i.
(A) I like / don't like (blue).	
(A) What (sport) do you like?	(B) I like (soccer) very much.
(A) I have (old balls). I want (s new ball).	

【該当する学習指導要領における領域別目標】～(発表)を除く4つの領域別目標を表記している。「読むこと」では、活字体で書かれた名前の文字を識別し、文字を見ながらその読み方を発音したり、好きなものや欲しいものについて書かれた文字を見て発音したりする。「書くこと」では、大文字と小文字の活字体を使って名前を書いたり、好きなものや欲しいものについて音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したりする。

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
読むこと	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
話すこと (やり取り)	ウ 自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

【指導案】1／8時間の導入のみを扱う。

1時間目の目標を「名前を紹介したり聞いたりする。」と設定する。

児童の活動	指導者の活動と使用英語例◎評価（方法）										
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に挨拶し、個別に数名の児童にも挨拶する。 										
<p>○Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような話が推測しながら聞くようにする。 ・I likeの表現は、既に外国語活動で行っていることを踏まえて、2回目は、何が好きと話しているか聞くようにする。 ・話の概要を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生になって初めての外国語授業であることから、指導者も英語で自己紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T: Hello. My name is Rumiko. R-u-m-i-k-o. Nice to meet you. I like ice cream. I like dogs. I have a dog. His name is Maro. M-a-r-o. Thank you.</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※Small Talkは、外国語で初めて出てくる活動である。既習表現を繰り返し使用する機会を保障し、その定着を図るものである。 ※自己紹介の内容は、Unit8/8時間目で行う自己紹介カード内容例と同じである。</p> </div>										
<p>【Let's Watch and Think】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大文字と小文字で書かれた表を見て、何が書かれているか考える。 ・先生と一緒に読みながら、読み方を確認する。 ・名前の表であることを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>この後、ペアやグループで大文字・小文字が書かれたアルファベット表から自分の名前や友達の名前を探して確認する活動を行い、後には、確認した自分の名前を見ながら書き写す活動になる。今回の名前ではパスポート表記（ヘボン式ローマ字）で扱うため、3年生で学習したローマ字表記と異なり混乱する子どももいると考えられる。その際には、指導者から英語表記について伝える。</p> </div>	<p>T: Let's think about this.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 Ren</td> <td style="width: 50%;">1 Yui</td> </tr> <tr> <td>2 Yuma</td> <td>2 Himari</td> </tr> <tr> <td>3 Minato</td> <td>3 Rin</td> </tr> <tr> <td>4 Hiroto</td> <td>4 Sakura</td> </tr> <tr> <td>5 Yuto</td> <td>5 Yuna</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の「赤ちゃん名前ランキング」表であるが、タイトルは表記せずに、活字体で書かれた名前と順位のみ表した表を黒板に張る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※4年生までに、大文字と小文字を認識し読む活動を行っていること、3年生の国語科でローマ字を学習していることから、名前かもしれないと推測できる。 ※5年生から扱う「読むこと」として、名前は理解しやすい活動である。 ※この後、ベスト10まで示して読むことで、名前の読み方に慣れ親しむ活動となる。 ※さらに、頭文字は大文字を使うことに気付き、次は自分の名前を書いてみたいと思うことで主体的に学ぶ姿となる。</p> </div>	1 Ren	1 Yui	2 Yuma	2 Himari	3 Minato	3 Rin	4 Hiroto	4 Sakura	5 Yuto	5 Yuna
1 Ren	1 Yui										
2 Yuma	2 Himari										
3 Minato	3 Rin										
4 Hiroto	4 Sakura										
5 Yuto	5 Yuna										

この単元では、これから一緒に生活し学んでいく友達に自分のことを知ってもらおうという「目的」で、教室内での自己紹介のやり取りという「場面」を設定し、これから一緒に学んでいく友達に伝えるという「状況」を意識しながら学び続けることで、何を伝えたらよいかを考えて表現を選択し、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を身に付けていく。このような学びの中で、「主体的・対話的で深い学び」を実現していくと考える。

IV まとめ

3年生から始まる「外国語活動」及び教科となる「外国語」は新しい学習である。教員を目指す学生においては「小学校外国語教育のあり方」について、さらに「授業の在り方」について丁寧に学び、授業実践できる資質・能力を育成していく必要性を強く感じる。

引用・参考文献

1. 文部科学省「小学校外国語活動 研修ガイドブック」(2008年3月)
2. 中央教育審議会答申(2016年12月)
3. 文部科学省「小学校学習指導要領」(2017年3月告示)
4. 文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語編」(2017年7月)
5. 文部科学省「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」(2017年)
6. 奈須正裕「「資質・能力」と学びのメカニズム」東洋館出版社(2017年)
7. 吉田研作「小学校英語 教科化への実践プラン」教育開発研究所(2017年)
8. 大城 賢「小学校新学習指導要領 ポイント総整理 外国語」(2017年)

